

骨川スネ吉の天才性に関する論考

工学部 3 回生 岡崎総一郎

骨川スネ吉とはドラえもんに登場するキャラクターの一人である。骨川スネ夫のいとこの大学生であり、骨川家の例に漏れず裕福である。また、天才的なプラモデル作りの腕前とラジコンの操縦技術を持つ (図 1)。本稿では彼の魅力について語りたい。

スネ吉はその印象深さに反しててんとうむしコミックスでは 10 回、大長編を含めて



も 11 回しか登場していないⁱ。初登場はスネ夫の台詞『いとこの大学生がラジコンの天才でね。つくってもらったんだよ』ⁱⁱ。スネ吉の作った戦艦大和のラジコンをのび太らに自慢する際の台詞である。ドラえもんらに戦艦大和が奪われたと報告するスネ

図 1 スネ吉のラジコン操縦技術

夫への反応(図 2)が、彼の「らしさ」を全て物語って

いる。未来からやってきた『ふしぎな力を持ったロボット』ⁱⁱⁱに臆することなく、むしろ嬉々として戦いを挑む様はギークの鑑である。彼は 4 機のゼロ戦を 12 チャンネル(図 1)で操り、戦艦大和を見事撃沈させる。ゼロ戦での反撃はドラえもんに衝撃的なインパクトを与えた。ドラえもんに対抗できる高い技術を持った唯一の当時代人であろう。



図 2 ドラに闘志を燃やす

スネ吉の魅力を語る上で外すことのできないエピソードと言えば何と言っても「ミクロス」^{iv}と「質感 量感 距離感」^vであろう。ミクロスとはスネ吉の作ったラジコンロボット(図 3)である。その操縦性の自由度の高さには目を見張るものがある。人型ながら飛行能力を有し、指関節の自由な折り曲げ、股関節の広さ^{vi}、ミクロスアタック(指を発射する射撃攻撃)など 21 世紀現在でもまだ見ることのできないような技術が満載されている。すべてスネ吉お手製である。ミクロスは出木杉英才でさえ叶わなかった「大長編ドラえもんサブキャラクター」の座を得ることに成功し、物語のキーマンとなった。「ラジコン大海戦」と併せて、彼の天才的な技術力を示すエピソードだ。また、彼はジオラマにも深い造詣を見せる。「超リアル・ジオラマ作戦」ではスネ夫の「プラモ道」の師範として彼に教鞭を振るっている。「質感 量感 距離感」とはそのエピソードの中でも特に有名な、ジオラマの撮影技術に関する台詞である(図 4)。余談ではあるが、彼らは骨川家の物置を特撮ジオラマに使用しており、豊富なプラモデルと同じく資金力の高さを見せつけている。スネ吉はラジコンやプラモデル、ジオラマのようなインドアな趣味に留まらず、スポーツカーや小型ボートを乗り回すアウトドア派^{vii}の

一面も見せる。ドラえもん世界では理想的に裕福な大学生として君臨している。

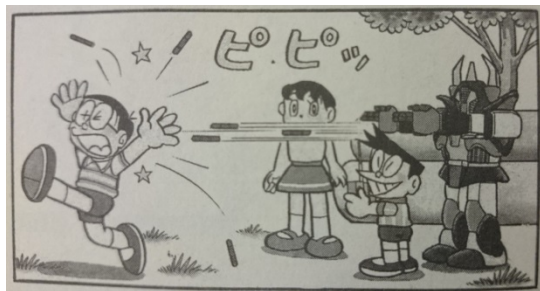


図 3 右側の人型ラジコンが「ミクロス」



図 4 ジオラマへの深い造詣

ただ、スネ吉は確かに「理想的に裕福な大学生」だが、「理想的な大学生」ではない。自身のスーパーカーをスネ夫、ジャイアン、静香、のび太に紹介する際に、のび太だけ乗せなかったり^{viii}、尾の島への海水浴にやはりのび太だけ連れて行かなかったり^{ix}と大人げなさを見せている。前者では『まてっ、そんなに多すぎるよ』と自然な流れで乗車を拒否しているが、定員を把握している以上は全員を乗せられないドライブは気遣いに欠けた提案である。後者はスネ夫がのび太を仲間はずれにしたとは言え、スネ夫を諷めたりのび太を改めて誘ったりする年長者らしさを見せることはなかった。あくまで「スネ夫の兄貴分」であり、彼が保護者らしさを見せることは一度たりともなかった。

以上を踏まえるとスネ吉はスネ夫が大学生になった姿として読むこともできよう。スネ夫が、スネ吉の天才的なギークらしさを見習う一方で、彼の精神的な幼さを反面教師としてより成熟した大人に成長することを祈って本稿を閉じたい。

i 『てんとうむしコミックス ドラえもん(14)』(1978)(以下、『(巻数)』と記す)、『(18)』(1980)、『(19)』(1980)、『(28)』(1983)、『(29)』(1984)、『(32)』(1985)、『(39)』(1989)、『(40)』(1990)、『(42)』(1991)、『(43)』(1992)、『てんとうむしコミックス 大長編ドラえもん VOL.7 のび太と鉄人兵団』(1987)

ii 『(14)』(1978)収録「ラジコン大海戦」中の台詞

iii 同上

iv 『てんとうむしコミックス 大長編ドラえもん VOL.7 のび太と鉄人兵団』(1987)

v 『(32)』(1985)収録「超リアル・ジオラマ作戦」中の台詞

vi ロボットの関節を表現するために必要なモーターの小型化軽量化及び高性能化は現在の人型ロボット開発のネックである。

vii 『(18)』(1980)収録「ドライブはそうじ機に乗って」、『(39)』(1989)収録「乗りものぐつでドライブ」、『(28)』(1983)収録「百丈島の原寸大プラモ」

viii 『(18)』(1980)収録「ドライブはそうじ機に乗って」

ix 『(29)』(1984)収録「広〜い宇宙で海水浴」